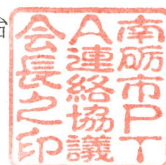


R07-019

令和7年11月6日

南砺市長
田中 幹夫 様

南砺市PTA連絡協議会
会長 山崎 賢治



要 望 書

平素より、子どもたちの教育と健やかな成長のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

南砺市PTA連絡協議会として、次のとおり要望いたします。

本要望書には、南砺市全体に関わる教育課題と、各小・中・義務教育学校からの個別の要望がまとめられています。

特に要望①～④は市議会および教育委員会との意見交換を重ねる中で、保護者が感じている課題を整理し、課題解決に向けた方向性を検討したうえで取りまとめたものです。

何卒ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。



要望① ICT ツール（テトル等）の活用

R07-019-001 教育総務課 学務係

学校と家庭をつなぐ連絡手段として、ICT ツールは今や欠かせないインフラとなっています。しかし実際には、教育委員会やこども課からの情報発信が学校ごとの判断に委ねられているため、同じ市内でも情報量や活用方法に差が生じている状況があります。

さらに、市内では「テトル」「コドモン」「なんと Hug」「防災アプリ」「南砺市公式 LINE」「緊急メール」など、複数の情報発信ツールが存在し、それぞれが異なる目的で運用されています。そのため保護者からは「どの情報をどこで確認すればよいのかが分かりにくい」との声も聞かれます。

ICT の活用は、学校や PTA の負担軽減・業務効率化に大きく寄与しますが、一方で家庭側の理解度や習熟度には差があるため、使い方や目的を分かりやすく整理することが重要です。全てを統一・一本化するのではなく、各ツールの役割を明確にし、目的に応じた情報発信がスムーズに行われるような運用ルールの整理と周知をすすめていただきたいと思います。

したがって、次の点を重視した対応をお願いします。

- ・テトルで発信する情報内容の一定程度の統一化（例：安全・登下校・緊急対応等）
- ・各種情報発信ツールの目的や利用方法の周知・啓発の推進
- ・学校・家庭・PTA が連携しやすいよう、継続的な見直しと改善を図ること

なお、一部の学校では雨風の状況に応じた下校対応など、安全安心のための情報をテトルで発信しており、こうした好事例を参考に全市的な運用の方向性を検討いただきたいと思います。保護者が安心して必要な情報を受け取れる環境を整えることは、学校と家庭の信頼関係を高める大切な基盤であり、子どもたちの安心・安全にも直結します。今後も学校・教育委員会・PTA が対話を重ねながら、常に改善と工夫を重ね、より良い形へと進化させていくことを要望いたします。

要望② 小1・中1ギャップの解消

R07-019-002 教育総務課 学務係

入学や進学は、子どもたちにとって大きな環境変化であり、生活習慣や学習、人間関係の切り替えなど、心身に大きな影響を与えます。特に中学1年生では、部活動や評価制度といった新しい仕組みに戸惑い、小学校からの急激な環境変化が強いストレスとなる場合があります。近年は、小学1年生においても不安や不適応が増加傾向にあり、「小1・中1ギャップ」双方への対応が求められています。

一定のストレスや環境変化は、子どもの成長に必要な側面もあります。しかしその一方で、実際に学校に馴染めず困難を抱える児童生徒も少なくありません。適応を「自然なもの」として片付けるのではなく、支援が必要な子どもを見極め、個別最適なかたちで伴走する仕組みが欠かせないと考えます。

市内では小中接続における担任間の引継ぎが行われていますが、学校ごとに形式が異なり、子どもの「強みや個性」まで十分に共有できていない実態があります。その結果、小学校で培った自信や得意分野が中学校に引き継がれず、かえって失速してしまう懸念もあります。キャリアパスポートの活用が検討されていますが、現状では形式的になっていることが懸念されるため、子ども自身の自己理解や自己肯定感の育成につながる工夫が必要です。

したがって、次の点を重視した対応をお願いします。

- ・学習状況だけでなく、子どもの特性・関心・得意なことなどの情報を引継ぎに含めること

- ・教員の多忙さを考慮しつつも、形式に偏らず、子どもの良さを伸ばすプラス面の共有を重視すること

- ・引継ぎの仕組みを学校ごとの差に委ねず、一定程度統一された枠組みの中で実施すること

小1・中1ギャップは「完全に無くす」のではなく、子どもたちが新しい環境に適応していく過程を支え、強みを活かして次の成長につなげることが大切です。そのために、学校・教育委員会・PTAが継続的に協議を行い、子どもたち一人ひとりの成長を確かなものにする仕組みづくりを進めていただきたいと要望いたします。

要望③ 大雪時等の対応

R07-019-003 教育総務課 学務係

大雪や荒天、熱中症アラートなどの際には、登下校判断や情報発信の遅れによって不安や混乱が生じることがあります。緊急時ほど、市全体での判断基準や連絡体制の整備が重要であり、特に昨年度2月の大雪時の経験は今後活かしていくべき課題だと考えています。

現状、市域の気象条件に差があるため、市として一律の基準は設けられておらず、学校ごとの判断に委ねられています。

ただし、市域が広く、地域や家庭ごとに状況が大きく異なるため、すべてを同じ基準で判断することは現実的ではありません。

そのため、「市全体で同じ対応を行う」ことを求めるのではなく、判断や情報発信の考え方や手順を共有し、一定の目安を持つことで、保護者や教職員が迷わず判断できる環境を整えることが重要だと考えます。

このように学校ごとの差を最小限にすることには、次のような意義があります。

- ・兄弟姉妹が異なる学校に通う家庭でも、対応方針の違いによる混乱を防ぐことができる。

- ・教職員の判断負担を軽減し、意思決定を迅速に行える。

- ・地域全体で安全確保の意識を共有し、連携しやすくなる。

現場では、校長会での情報共有はあるものの、保護者や地域を交えた意見交換の場は十分に整備されていません。また、通学路の除雪は車道が優先されるため、子どもたちが危険な状況で登下校する場合も見られます。加えて、先生方が市内や校区外から通勤されていることも多く、地域の事情を十分に把握できないまま判断を迫られる状況もあり、現場にとって悩ましい課題となっています。

こうした現状をふまえ、次の点を重視した対応をお願いします。

- ・大雪・荒天時における判断や情報発信の考え方・手順を整理し、一定の目安を共有すること
保護者・地域を含めた意見交換の場を設け、課題や事例を共有し改善につなげる

- ・通学路の安全確保について、行政と地域が補完し合える仕組みを検討すること

引き続き、学校・教育委員会・PTAが協議と工夫を重ねながら、子どもたちの安全と安心を守るために最適な形をとともに創り上げていくことを要望いたします。

要望④ 拠点校・地域移行に係る課題への対応

部活動の地域移行や拠点校化は、少子化に対応しながら子どもたちの活動機会を確保するための重要な施策です。しかし、現場では移行に伴い活動場所や時間が変わり、送迎の負担や夜間活動による生活リズムへの影響が生じています。その結果、子どもたちの勉強時間や睡眠時間が削られる、保護者の負担が増える、兄弟姉妹の生活にも影響が及ぶといった課題が見られます。

現状、一定の拠点校や地域クラブは整備されつつありますが、移動手段や活動時間の工夫が十分でない場合、子どもの「やりたい」という思いがあっても参加しにくい状況が生まれています。本来であれば学校内の部活動として継続したい競技でも、試合出場のために地域クラブへの所属を余儀なくされる場合があります、その分保護者の負担が増すという現実があります。こうした中で、保護者や地域が個別に努力するだけでは限界があると感じています。

このような現状をふまえ、次の点を重視した対応をお願いします。

- ・送迎や夜間活動に伴う子ども・保護者双方の負担を軽減するための具体的な支援策を検討すること
- ・学校部活動と地域クラブが補完し合い、多様な活動機会を子どもに保障できる仕組みを整えること
- ・移行の進捗や課題を継続的に検証し、必要に応じて制度や運用を見直すこと

引き続き、学校・教育委員会・PTAが協議と工夫を重ねながら、子どもたちの可能性を広げる最適な形をともに創り上げていくことを要望いたします。

要望⑤ 各小・中・義務教育学校からの個別の要望

各小学校・中学校・義務教育学校の学校PTAでまとめた要望事項を一覧として取りまとめ、別添のとおり提出いたします。

今年度は、これまでに提出してきた要望事項の進捗状況を確認し、「完了」「未完了」に整理しました。

未完了の中には、行政の対応を待たずに地域や関係者が主体的に取り組み、実質的に解決しているもの、また時間の経過により課題としての性質を失っているものもあります。これらについては、「どこまでできたか！市民要望」においても「対応完了」として更新くださいますようお願いいたします。

また、未完了の中で引き続き対応が必要なものについては、今回も再要望として提出いたしますので、内容をご確認のうえ、対応をお願いいたします。

今後も、家庭・学校・地域・行政が連携しながら、子どもたちのより良い学びと環境づくりに向けて取り組んでいければと願っております。

何卒よろしくお願い申し上げます。

— 以上 —